

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス 学びの郷			2025年 4月 6日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	利用スペース確保のため、室内にロフトを作っている。スペースを子どものニーズに合わせて調整を図っている。	使っていないアスレチックの解体、体を思いっきり動かせる環境に移転できたらベスト。もう一部屋欲しい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		バランスやその日の配置を考えられています。コミュニケーションと連携。	午前中から出るスタッフの確保。強いて言うなら世の中、様々な職業経験者が関わるシステムがあればいいと思う。低年齢のお世話でスタッフが1対1になると負担が増える。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	なるべく床にもものをおかないようにしている。ニーズに応じたスペースエリア、空間有効利用での活動領域の区分。	アスレチックやロフトの利用の点で、やむを得ない危なさがある。トイレがバリアフリーではない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	環境整備担当を配置し、週ごとに確認をしてもらっている。静かになるスペースも居心地よくしている。適宜清掃。	活動を多様化させると、細々とものが増える。読書できるお部屋、全く音が遮断できるスペースがあればなおいい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	2	ロフトや寝る場所などを確保している。カフェのようなスペース、パソコンを使用できるスペース。	大きく一つの部屋なので、しきられている場所があるとはいえ、個別感をもちにくい。倉庫になっている部屋の整理整頓。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		できるだけ毎日、お昼と送迎後にミーティングをもちている。定期的な話し合いと、前話し合えたことどれくらいすすんでいるのか見直し。	スタッフが揃う時間の確保。毎週初めにある程度の時間を確保してのミーティングをしたい。それに特化した教育や知識の普及。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		LINEにてもちろんアンケートに参加していただけるようにしている。モニタリングの内容をスタッフにまでおとしてくれます。	ご意見いただいても課題点に対する改善がしにくい。親が子どものニーズ把握していないときの難しさがある。コミュニケーションが難しい保護者との連携。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		LINEにてもちろんアンケートに参加していただけるようにしている。適宜ミーティング。	細かな意見が出にくい。1人1人の能力が発揮できるようなアクティビティの設置。スタッフが揃う時間の確保。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	本社に細やかに状況を連絡している。意見ポストの設置。近隣の方にも立ち寄りやすく声かけられやすいオープンな環境づくり。	完全な第三者機関とは言い難い・他にもどんな取り組みができるのか実例を知る事、同時に複数の意見から来る改善は難しい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		年に一度、時間をかけてこどもに対する理解を深める機会を設けている。開催時の周知。出席サポート。	専門的な分野では、その情報や関心のある職員のみ偏る。時間の確保が難しい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページにて公表しており、ご家庭にもアナウンスしている。モニタリング後すぐ情報共有。適宜ミーティングと資料作成。	より定期的に更新して、その都度ご家族に連絡する、可視化する方法。年齢に応じたアップデート。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		保護者のニーズを汲むため、送迎時などお会いできる時にも聞き取りをしている。周知して話し合いも行っている。	各ご家庭が忙しくゆっくりとニーズの汲み取りができない。ニーズの偏り。過剰要望に対する対応。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		日々のミーティングに管理者が加わって連携を深めている。ミーティング後に作成している。	地域との連携の点。個人の勉強。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		定期的に支援計画で立てた目標をミーティングにて振り返っている。職員がそろう曜日に話し合いを設けている。	特性に対して瞬発的に反応して、ベストでない支援になることもある。話し合った取り組みを忘れない。早目の計画や周知。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	その子の目標がどうなっているか、取り組みなされてるか話し合う。個別データ収集と資料作り。	明確なアセスメントツールを毎回使うというよりは、話し合いの中でまとめているので、明確なものを作成する。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		家庭、スタッフ、こどもたちの意見を汲んだプランニングをしている。家庭支援、その都度送りの際に行う意識高いと思う。優先順位。最適化。	こどもの意見、思いが汲みにくい児童に対してのニーズが明確にしにくい。地域支援どう取り組んだらいいか知識深める。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		少人数スタッフなので、いつもひとつのチームとして動き、意思疎通をはかっている。パートも含め参加マストです。	個別にチームを作りやすく、みんなでまとまる日を設定するのが難しいことがある。司会する人を変えてみる。視点変わると思う。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		新しくとり組めることがないか、いつも意見を出すように声掛けし合っている。計画を柔軟にしている。アイディアも子どもたちのニーズで変えている。	専門的な知識より取り入れていくための勉強会が必要。より多くの子どものニーズをくみとる。創意工夫。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		ミーティングの際、都度子供の思い立てるように意識を高めている。1人の子のために工作をしたり、学習のレベルに合わせてファイルも作成している。特性、性格、年齢を考慮したグループ分け。	ご家庭からも、ニーズを汲み取りにくい場合もあり、真のニーズを見極めることに難航することがある。個々のモチベーション高める。集団共同作業が難しい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		その時間に変わりやすいように、お菓子やお茶など用意して和やか雰囲気にするようにしている。職員の能力も考慮している。グループラインにて活動、送迎アナウンス。	長期休暇など、午前中からの利用がある場合にミーティングを行いにくい。個々のレベルアップ。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		送迎、片付け、記録付けなどを分担して行い、ミーティングする時間を捻出している。持ち越さない。LINEグループでのその都度共有。	その後の拘束時間が長くなる場合があり、十分に時間が取れないことがある。勤務時間内におわらせることが難しい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		連絡帳をつけ、課題も書くが、できるだけポジティブな意見を残すようにしている。担当した人からのその子の様子を聞いている。協力して作成しているファイル。	ヒヤリハットへの記入が不十分である。活動が多かったとき何を記録にとるかそれぞれでちがうこと。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		3ヶ月に一回のモニタリングを始め、気になることがあれば時間をとって、その児童について聞き取りを行っている。課題が何割改善されているか、それぞれの観察も話し合われている。	その時に勤務していないスタッフの聞き取りが不十分になることがある。記録がモニタリングの内容取り組みとどう関連しているかの意識で記録していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		課題として考えるときに、4つの活動を意識して組むようにしている。その日に一つの活動の中でもその子の四つのどんな面に関連してるか、意識して声かけてする。最適な組み合わせの模索。	家庭での問題が大きすぎて、例の支援する枠組みを超えている場合がある。興味が集中する子にどうモチベーション高めて取り組ませるか。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		なるべく思いを尊重するとともに、結果を想像できるように話をし、その時良いと思われる行動についても提案している。好きなこと得意なことにも時間を意識させ、色々な活動試みもらえるように声掛け。	その時の時間的また、環境的要素によっては本人に選ばせると言うよりもそうしてほしいとお願いする場合が多い。一つの活動にこだわらず子どもへの上手なアプローチ。執着や依存からの成長。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		基本的には責任者管理者が参加するようにしている。そうした担当の人には子どもの気になる状況行動をすぐに伝える。出席者への情報共有。	他の人を会議に参加させるためには、別途時間を割いてもらうための給与が必要になり難しいところもある。出席時間の確保。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		特別支援学校の利用者による郊外訓練で利用した施設と連携を取ることを意識している。データ共有。	日々の活動に忙しく、十分な連携を複数のして取ることができていない。もっと多様な期間との連携、スタッフにも周知。コミュニケーションが難しいところとの連携。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		LINEを活用して綿密に行うようにしている。連絡帳をみる。積極的な情報共有。	中学校以上になると、先生がそこまで生徒との距離が近くないから、連携不足が目立つようになる。子どもが伝え忘れがあるのでこまめに先生からの予定を確認しておく。コミュニケーションが難しいところとの連携。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2	保護者等からの情報収集。	新年度から新一年生など低学年の子が入賞することもあるため、そういう施設とも連携を取れるように伺っていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		定期的に就労場所などにも顔を出して、現在の様子や本人の特性の事などを定期的に共有している。利用者が卒業後顔出しやすい雰囲気を作っています。その後どんな様子か知るようにしています。資料共有。アフターケア。	よくやっていると思います。ありません。個々の難しさ。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	電話連絡等の連携。	そのような場所を見つけてアドバイスを求められるようにしていきたいと思う。研修時間の確保。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		屋外にて活動する際に、保護者の同意を得つつ、地域の子どもたちと一緒に遊ぶ機会を設けている。児童館をよく利用していましたが、無くなりました。公園や公共施設での共同活動参加。	近くに児童館等がないので、より多様な子供たちと接する機会を持てる資源を見つける。児童館が無くなりました。その後交流スペースがどうなっているのかよくわかりません。

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1	相談、情報収集。	時間の都合、タイミングが合わず参加できないことも多い。本人の自立能力訓練。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		モニタリング以外に、送迎の時にでも連携を取るように努めている。毎回その日のことや家族の変化も含めて様子を聞くようにしています。送迎時やライン等での情報共有。	ご家庭に忙しさに応じて、時間を取ることが難しい。祖父母に預けられている子供たちについてのアプローチ。忙しい保護者等への情報共有。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		送迎等の時にもミーティングで出た課題や対応について共有し、ご家庭でできることを提案するようにしている。子どもの対応について家庭でどういう困り感があるか、どう対応しているか聞き取り。適切なアドバイス提供。	実際にも会えず、LINEでもお返事いただけないご家庭もある。その子に適した対応知識を相互に深める。研修の機会の情報提供。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		時間が取れなくても、LINEなどで情報共有して必ず目に止まるように配慮している。計画や取り組み、その日の様子を口頭だけでなく写真など含めて伝えている。理解しやすい説明やコミュニケーション。	詳しく説明しようとしても、なかなかお時間が取れない。家庭も多い。お出かけの予定など前もって計画を伝え理解を得るようにしています。もっと分かりやすい説明。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		モニタリングの際に詳しく聞き取ることや、送迎の時に関係者に少しでも多くの情報をもらえるように時間取るようにしている。コミュニケーション（送迎時やライン等で情報交換）	よくやっていると思う。良く出来ている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		どうしても時間的にお会いできなかったり、関わりが持つことが難しい。ご家庭は、LINEにて画像を共有させてもらい、目にとまるようにしていただいている。責任者が本当によくコミュニケーションとっている。	情報共有の時間の確保。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		送迎の時間を活用し、こちらから難しさや問題点やサポートしてほしい事はないかなどをきき取る。責任者は仕事外にもよく連絡をとっている。家族の問題もぶくめ例外的対応までしている。送迎時やライン等でコミュニケーションとケア。	時間の確保。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	2	保護者会と名打つことができていないが、長期休暇の時などイベントがあるときにはご家庭の人たちを招くようにしている。夏休みなど親御さん参加して祭りを計画している。	各家庭忙しいことが多く、提案する事はあっても開催するに至っていない参加が難しいご家庭へのアプローチ一部しか出来ていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		すぐに対応している。直接あって話し合い設けている。誠心誠意即時対応。	苦情として上がってこない場合があったり、子供の発疹だけでは勘違いされてしまうということもあるので、丁寧に気を取っていく必要がある。誤解を招かない状況説明。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		活動をのせています。以前は新聞発行。今はライン等。	ブログ更新もよくしてと思います。良く出来ている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		インターネットで画像などを公表する場合には、本人と判別がつかないように加工している。顔出しNGの子のプライバシー徹底。	写真等の撮り方、用い方。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		LINE等のSNSを活用する。他児童とは一対1でよく話す機会を設けるようにしている。送迎のためにコミュニケーションよくとるようにしている。理解のしやすさ、言葉選び。	適切な配慮。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	招待等には至っていないが、なるべく地域で遊ぶときには、子供たちと一緒に挨拶をして、地域の方に知ってもらえるように努めている。お祭りを開催小規模で。	チラシなども作成して普及してみる。まだ小規模。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		定期的な避難訓練や、子供たちとの会話の中で色々な想定をして、対応力を高めている。担当がよくやっています。	もっと実際の役立訓練を行いたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		歩いてどれくらいかかるか毎年山に登っている、資料作りと実地訓練。	子どもたちに紙芝居で教育。訓練の充実。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		保護者等の連絡。	保護者等との連絡が取れない時の対応。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	保護者からの申告。保護者等からの情報提供。	医師などの指示かどうかを全て把握できないが、保護者との連携を図るようにしている。アレルギーもつ子たち時折確認。細かな変化への対応。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		毎年意識強化。適宜ミーティングや研修。	勉強会。安全管理の充実。

対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		組織化。 良いコミュニケーション。	保護者への再度確認。 連絡が取りにくい保護者との連携。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		担当がいて確認しながらおこなっている。 ファイル作成。	もっと多くのヒヤリハットを上げて活用していく必要がある。 情報収集。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		定期的な虐待防止の会議以外にも、必要なことを感じたときには、率直にみんなで話し合うようにしている。その都度職員に危険について周知と理解。ファイル作成と研修。適宜ミーティング。	よくやってる。 スタッフの変化に応じた対応。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		明確化。 資料の読み合わせ等のミーティング。	よくやっている。安全を大切にしている。 普段の咄嗟の対応。